

平成30年度第3回 安城市子ども・子育て会議 会議録

日時 平成30年11月8日(木)

午後2時00分～3時30分

会場 市役所本庁舎3階第10会議室

■出席(16名)

神谷明文会長、石川伸男副会長、柴田綾乃委員、喜邑友宣委員、執行紀美代委員、岩瀬せつ子委員(代理:宮治友也様)、塩之谷真弓委員、都築光男委員、小野真奈美委員、土肥由美委員、鈴木靖子委員、重田一春委員、杉浦泰治委員、市川彩委員、木内正範委員、
助言者:勅使千鶴教授

■欠席(5名)

成島清美委員、榊原守委員、細井治子委員、塚本有子委員、小松千鶴子委員

■次第

1. あいさつ

2. 議題

議題1 安城市子ども・子育て支援事業計画の策定について(資料1)

議題2 市民アンケートについて(資料2)

議題3 今後のスケジュールについて(資料3)

3. その他

■議題

議題1 安城市子ども・子育て支援事業計画の策定について(資料1)

議題2 市民アンケートについて(資料2)

【神谷会長】

事務局から議題1、2を同時にご説明いただきます。

また、先ほど、助言者である勅使先生から平成25年に実施したニーズ調査と今回はどこが違うのかということに加え、安城市としてオリジナルの施策を実施するのかとのご質問がありましたので、併せてご説明をお願いします。

資料1、2に基づいて事務局から説明

【神谷会長】

就学前、就学後の調査票の内容については、意見をいただいて完成したいとのことですので、

よろしくお願いたします。

【木内委員】

一点目は、調査の対象者について、平成 25 年の実績として、それぞれ 2,000 件となっていますが、0 - 5 歳、5 歳以上のお子さんをお持ちの世帯が何世帯あって、何%の世帯にアンケートをとるのか説明して欲しいです。また、両方とも 2,000 件というのは、十分なのでしょうか。

二点目は、「就学後」9 頁にある休日の放課後児童クラブの利用希望について、あえて土曜日、日曜日、祝日をあげたということは、今後実施する予定があるのですか。

また、(三点目は)「就学前」22 頁問 26 の解答欄にある「3. 実施行事」については、行事という表現が抽象的だと思いますので、行事の固有名詞を入れた方が良いのではと思います。さらに、安全面・健康面についての項目も設けた方が良いと思います。

(四点目は、)問 27 の解答欄にある「4. 生活習慣がくずれないか」について、説明をお願いします。また、「学習の面についていけるかどうか」「新しい環境に適應できるか」を選択肢に加えてはどうでしょうか。

(五点目は、)問 28 の設問について、「どのように思いますか」としてありますが、「思う」というのは、期待と不安があると思いますので、「期待しますか」とした方が良いと思います。また、保育以外の対応とありますが、保護者の方が認識できるでしょうか。イメージしやすい表現にした方が良いと思います。

(六点目は、)問 29 の不安について、保育料についての項目がありません。市議会だよりの資料では値上げであったように思いますので、入れた方が良いのではないですか。

【事務局】

調査対象者の母数については、後日回答させていただきます。

「就学後」9 頁の放課後児童クラブの実施については、具体的に取り組むといったことではなく、調査結果をもとに、整備を検討するかどうかの材料としたいと考えています。

「就学前」22 頁問 26 については、ご意見いただいたように修正したいと思います。また、安全・健康に関する項目の追加も検討します。

四点目の問 27 の生活習慣については、環境が変化するという中で、寝る時間の変化などの生活習慣に違いがでると考えられますので、記載しております。また、新しい環境に適應できるのかという項目などを追加することも検討します。

五点目の問 28 について、次の問 29 と対となるの設問となっていますので、ご意見いただいたとおり修正したいと思います。また、具体例についても、今後内容を検討して反映していきたいと思います。

六点目の問 29 の保育料の負担増加については、認定こども園の 1 号認定と 2 号認定の整合を図る目的で引きあげたとしています。

【市川委員】

認定こども園の設置については、ハード面の要素が強くなると思いますが、ソフト面で安城市がより一層強化していきたい大きな柱となる部分を聞きたいです。

また、アンケート 5 頁の働いている状況を聞く設問について、働いていない方の理由を聞いていますが、フルタイムで働いている人が、なぜフルタイムで働いているのかを聞くことも重要だと思います。例えば、一度辞めてしまうと復職できないことや、安城市の保育環境が整っている

から働いているなど、いろいろな理由があると思います。こういったことを把握することで、より正確にニーズを捉えることができると思います。

【神谷会長】

父親、母親のどちらともですか。

【市川委員】

その通りです。

【事務局】

設問数が多いと回答する方の負担が増えることから、こちらも苦慮しています。ご指摘の件については、その通りだと思いますので、追加を検討します。

保育内容について、具体的にどうかと質問がありましたが、この子ども・子育て支援事業計画で抜本的に変更するというわけではなく、日々の改善の中で充実を図っていきたいと思っています。無償化による影響や受け皿の確保については、ニーズ調査の結果を踏まえて、積極的に検討したいと思っています。

【神谷会長】

市川委員のご質問は、安城市としてどういった姿勢でやっていくかというご質問だったと思いますが、いかがですか。

【勅使助言者】

先ほど市長からのごあいさつもありましたが、「子どもの最善の利益を保障する」ことは、とても大切なことだと思います。そのために、職員の方や保護者の方などがこれまで実践してきた内容を整理して一歩踏み出すことは大事なことです。「子どもの最善の利益を保障する」ということは、市民の思いにも通ずると思います。

量的な発展と質的な発展が求められている中で、質の発展は非常に難しい問題だと思います。社会情勢も影響している中で、市として状況を少しでも整理できると一歩進むのではないかと思います。

【事務局】

保育園、幼稚園、認定こども園にしても、安城市の子どもにとって最善の利益となる取組を進めています。安城市に暮らしているどのお子さんにとっても、安心・安全の環境で育っていくことができる施設でありたいと思います。また、地域みんなで育っていくという思いを大切に、質の向上のために精一杯努力をしていきたいと思っています。

【神谷会長】

様々な制約の中で、子どもの最善の利益を求めていく姿勢や理念が大切だと思います。

【宮治委員代理】

これから、無償化によって保育需要が大きく変わると考えています。無料であれば働く方ができると思いますので、影響を把握する設問を盛り込んでもらいたいと思います。そうした内容を盛り込むことで今後のニーズを捉えた大事な資料となると思います。

【事務局】

「就学前」12 頁問 13 の設問で、無償化した場合と比較できるのではないかと思います。

【宮治委員代理】

幼稚園と保育園を一体的に考えたとき、1 号と 2 号のどちらにどれだけニーズがあるのかを把

握することが大事だと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】

アンケートの中で、就労希望などを聞く設問を設けており、結果を踏まえて、クロス集計して分析する予定です。

【都築委員】

「就学前」22 頁問 27 の選択肢で「他人とのコミュニケーション」とありますが、表現が抽象的で判断が難しいので、「友達や同級生と仲良くできるか」などの方が良いと思います。また、生活習慣については「新しい生活習慣に早く慣れることができるか」など、マイナスな印象より答えやすい印象に変えた方が良いと思います。

【事務局】

表現については、ご意見を参考に修正させていただきます。

【喜邑委員】

調査対象者が各 2,000 件とのことですが、人口構造をみると、きょうだいの人数を想定しても 8,000 人くらいが対象であると思います。どういう基準で数を判断しているのか、全数調査は可能なかどうか教えてください。

また、市役所の方は、保育現場の意見を聞いているのか知りたいです。数字では測れないこともあると思いますので、視察などを行い、「朝から帰る」まで子どもをみているのかどうか気になります。

さらに、少し違う話になるかもしれませんが、男性の育児休暇の取得状況を把握していますか。職場によっては育児休業がとりにくい環境もあると思いますので、行政からの働きかけがあれば良いと思います。

【事務局】

アンケート調査の対象者数については、社会調査を実施する際に必要サンプル数を算出させていただきます。その際に、3~4%あれば信頼度を確保できますので、現在の対象者数で問題ないと考えられます。

また、保育現場の把握について、職員研修として公開保育を実施しています。半日ではありますが、保育の状況を見て、話し合いをしています。その場に保育課職員や私立保育園の方も参加しており、質の向上をめざしています。

【勅使助言者】

先ほどの質問については、上層部の職員の方に聞いたというように思います。それらの方も一緒に保育を見ていただくと、より良いと思います。

【事務局】

公開保育については、現場職員だけでなく、保育課長も出席しています。時間がとれば少しでも保育現場の状況を見るようにしており、意識高く取り組んでいます。

【塩之谷委員】

安城市は、産後の支援として育児支援・家事支援などを実施していると思いますので、例えば「就学前」17 頁の選択肢の中に事業を掲載するのはいかがですか。市民への啓発に加え、安心感に繋がり、市からのメッセージとして伝わるのではないかと思います。

また、赤ちゃんのオムツの処理について、都市圏では保育園でオムツを処理しているという事

例があります。安城市としても、子育て世帯を色々な場面で応援していることを示すことができれば良いなと思いました。

【事務局】

安城市の育児支援等は、「就学前」問 20 に反映していきたいと思います。

オムツの件については、持ち帰りをしなくても良い自治体が出てきています。感染症の予防や電車など移動の際の対策にもなっています。安城市でも、料金や処理場所などについて勉強して、今後検討していきたいと思います。

議題 3 今後のスケジュールについて（資料 3）

資料 1、2 に基づいて事務局から説明

【神谷会長】

ヒアリング対象については、幼稚園、保育園ですか。

【事務局】

幼稚園、保育園、認定こども園にあわせて、関連する施設、団体を想定しています。

【神谷会長】

アンケート調査の結果については、平成 31 年の 2 月末にお示しですか。次回会議の日程については未定ということですか。

【事務局】

報告書としてお示しできるかどうかは今後の予定次第ですが、何らかの形でお示ししたいと思います。日程は未定となっています。

【勅使助言者】

様々な意見が出て、事務局から納得ができる回答が得られて非常に良かったと思います。また、「就学前」23 頁にあります保育サービスという表現ですが、これは何を指していますか。学校教育は教育サービスとは言いません。役所で「保育サービス」と言われますが、安城市は、保育、幼児教育として使っていただくとありがたいと思います。また、内容を具体的にさせていただくとより納得がいくのではないかと思います。

【神谷会長】

以上で終了とさせていただきます。